

患者参加による医療安全

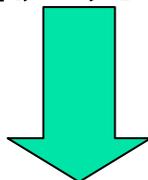
—「医療情報コーナー」を開設して—

横浜市立市民病院

医療安全管理室

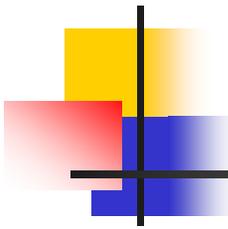
患者図書室設立の経緯

- 平成19年度医療安全推進週間の患者さんの反応
外来ホールに当院「安全管理の取り組み」
化学療法、MRI等の検査に関する情報を展示
- インシデントレポートにみる医療者とのずれ
医療知識がないと、医療者より説明を受けても
短い時間の中では説明内容が理解できない



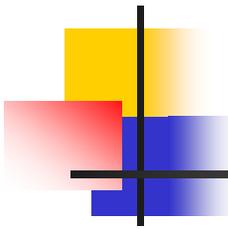
平成20年5月

医療安全管理室が患者図書室設立を提案



設立目的

- 患者サービスの一環として「医療情報収集の場」を提供する
- 医療情報を提供することによって、医療者と患者間で行われるインフォームドコンセントの患者理解を助け、診療の自己決定を支援する

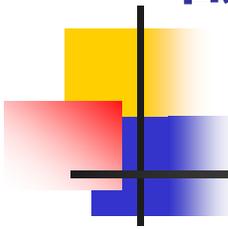


設立に伴う問題点

- 空きスペースがなく

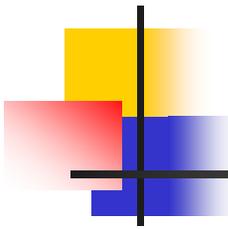
設置場所の確保が困難

- 患者図書室設置の主旨を理解している管理者が少ない
- 担当者の患者図書室に関する知識不足



設立(H21.8)までの取り組み (平成20～21年度)

- 病院幹部会、安全管理対策委員会への提案
「医療情報コーナー設置の基本的考え方」
- 医療安全全国共同行動への参加登録
支援者からの助言を受ける
- 施設見学、文献学習
- ワーキンググループ立ち上げ
管理部総務課、患者サービス委員会
セーフティマネージャ会議グループ活動
- 運用マニュアルの作成



設置場所の検討

- 図書ボランティア室(8階)

昭和63年一般図書の巡回サービス開始

メリット:週2回人的配置あり

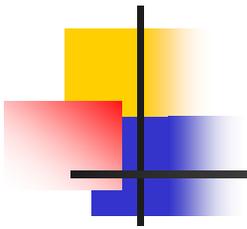
- 職員図書室との併設(1階)

メリット:人的配置あり

- 外来スペースに設置案 ◎ **決定**

メリット:1日1000名以上の患者・家族の視界にはいる





医療情報コーナー蔵書

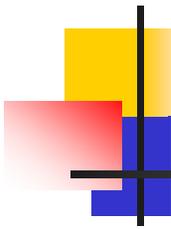
* 医学図書300冊を目標

開設時218冊(8/7)

* 定期購読雑誌4冊

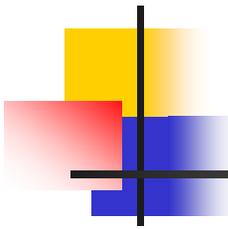
①今日の健康②からだの科学③暮らしと健康

④がんサポート



導入図書選定基準

- 当院の医療機能(がん等)に関連したもの
- 5年以内に発行された図書
- 一般向けの医学図書でわかりやすいもの
(1冊1,000から2,000円程度)
- 横浜市中心中央図書館
(医療情報コーナー採用図書)
- 他施設「患者図書室」採用図書を参考



医療情報コーナーの運用

- 利用時間 平日7時30分～17時
- セルフサービス
- 貸し出しはしない
- 御意見ノートの設置
- 利用者は1日あたり10人程度(目視による調査)

当院の医療情報コーナー の特徴

- 平成18年設立

横浜市中心図書館「医療情報コーナー」

との連携

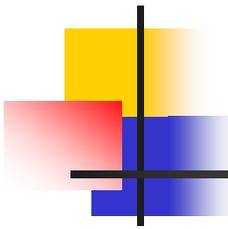
“患者・市民が主体的に医療を学べる環境を整える”

市民医療を考える横浜懇談会の提言から設立された。

- 専任の人的配置なしでスタート(セルフサービス)

周辺のガイドボランティア、医事課職員

患者相談室職員等に協力を依頼



今後の課題

- 医療情報コーナーの維持管理
インターネットによる情報提供、図書^の紛失
ボランティア等の配置
- 患者さん、医療者へのアピール
- 患者図書室への取り組み